

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

お 盆

平成28年7月第2週放送

今年もお盆の季節を迎えました。お盆は、家に戻る^{ほとけさま} 仏様に食事を供養し、おもてなしをする行事です。各家庭では、家に戻って来てくれた仏様・ご先祖様へのおもてなしの食事を用意いたします。一年ぶりにゆっくりと^{くつろ} 寛いでいてほしいという気持ちで、亡き方の好物をはじめ、ご馳走をそろえます。

一方、おもてなしを受けるご先祖様の方は、一年ぶりに家族との対面を果たし、家族が無事に過ごしていることを確かめ、安心されていらっしゃることでしょう。

また、新^{にいぼん} 盆のご家庭であれば、親しい存在であった亡き方が戻ってこられ、残されたご家族が、葬儀^{さんぎ}を経て、少しずつ日常を取り戻してきているのかを確認しながら、励ましてくださっていることでしょう。

おもてなしをする^{せしゆ} 施主の側も、おもてなしを受ける^{ほとけさま} 仏様の側も、「食^{しょく}」を共にする行事がお盆といえるのではないのでしょうか。

おもてなしといえば、葬儀や法事の後に食事の席を用意し、食事を一同でいただく機会も多いものです。仏事^{ぶつじ}には、「食^{しょく}」が欠かせないものでもあります。

一方で、私たちは大切な食事を^と摂る気持ちにもならなくなる体験をします。それは人生において体験する、大切な人との別れです。ご遺族の中には、大切な人が亡くなってから何も手がつかなくなり、気が付けば、食事も睡眠もとらないまま、通夜・葬儀を迎えているという方も少なくありません。「自分がしっかりしなくては」と、何とか気持ちだけで自分を維持^{いじ}しているような、そんな状態になります。

そのような時に、「食^{しょく}」の席は、気持ちを分かち合い、自分を取り戻す機会を周りが与えてくれるものといえます。たとえ自分が食事を^と摂ろうという気持ちに進んでなくても、周りの人が食事をしている様子を見ると、つられて少しでも箸^{はし}をつけようとする、そのきっかけを食事の席が与えてくれます。また、言葉でうまく気持ちが伝えられなくても、その食事を共にすることで、共に亡き方を思う気持ちが伝わっていきます。仏事における食事は、来てくれた方へのおもてなしであるだけでなく、来てくれた方がご遺族を励ましてくれる機会にもなっているのです。

食卓を共にするということには、気持ちを共に分かち合うという意味が込められているのです。

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

お盆は、^{ほとけさま} 仏様と共に食事を摂る^と貴重な機会です。是非、ご先祖様と共に楽しい食卓を囲み、お盆をお過ごしいただければと思います。

— 終 —